

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	976.30	2022/1/3
High	1005.60	2022/1/6
Low	933.30	2022/1/3
Close	959.85	2022/1/7

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3608.00	2022/1/3
High	3749.00	2022/1/6
Low	3458.00	2022/1/3
Close	3565.00	2022/1/7

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	1902.60	2022/1/3
High	1950.28	2022/1/7
Low	1820.85	2022/1/4
Close	1936.29	2022/1/7

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	7039.50	2022/1/3
High	7249.00	2022/1/7
Low	6749.29	2022/1/4
Close	7192.75	2022/1/7



ニュースエクスプレス

プラチナ触媒、メタンガス排出軽減への鍵となるか

米アイオワ州立大学、パデュー大学、ジョンズ・ホプキンス大学の研究者らは、メタンガスを大気中から取り除き、温室効果ガスを安全かつ効果的に利用する触媒技術を開発・検証した。

学術誌『Nature Catalysis』に発表された論文で同研究者グループは、メタンは温室効果ガスの中でも温暖化への影響が大きい、その炭素原子と4個の水素原子を分解して酸素と混ぜた合成ガスからメタノールと水素を作り、アンモニアを作り出すという再利用プロセスは複雑で高温を要するとしている。

その他の反応は効率的ではなく、また二酸化炭素を発生させる。

このような状況で同研究グループは原子サイズの単層あるいは二層のプラチナからなる触媒を開発し、それを「MXenes」と呼ばれる、炭素・モリブデン・チタニウムからなる薄い金属炭化物に付着させた。

同グループによるとプラチナの薄い層のおかげで全てのプラチナ原子が触媒として反応し、触媒凝集及び炭素排出反応を防ぐことができ、触媒としてプラチナの量は多くを必要としない。

この新しい触媒技術はメタン、及びその燃焼物としての二酸化炭素の排出量を将来的に軽減することにつながる画期的な一歩である。

<https://www.mining.com/platinum-catalyst-may-be-the-key-to-reducing-methane-emissions/>

コメルツ銀行、自動車販売の低迷が貴金属に与える影響について言及

コメルツ銀行のDaniel Briesemannは低迷する自動車販売が貴金属に与える影響についてコメント。プラチナとパラジウムは自動車販売の低迷と世界的な半導体不足で価格が伸びず、ゴールドについては米連邦準備理事会の連邦公開市場委員会での声明が、ADP 雇用統計発表に伴って上昇したゴールド市場に悪影響を与えたとした。

米連邦準備理事会については、「理事会の声明発表は夕方のゴールド市場に影響を落とし1800ドルにまで価格が下がった。また、アメリカ経済の回復と高インフレを受けて量的緩和策の縮小を早めて前倒しするとした声明はタカ派的と解釈された。それを受けて10年物米国債の利回りは9ヶ月ぶりに 1.73% となり、ゴールド価格を押し下げた。」

同氏はプラチナとパラジウムに関しては、「Wards Automotive Groupのデータによると米国の昨年の自動車販売は1493万台で、コロナ禍で低迷した前年からわずか 3% しか伸びなかった。つまり米国の自動車市場は未だ十分に回復していないということになる。さらに販売実績はコロナ禍以前のレベルに届いていない (12%及ばず)。同様に芳しくない数字は残る二つの主要自動車市場である中国と欧州についても、今後数週間内に報告されるだろう。我々の考えでは、これはコロナ危機で消費者が消極的になっていることと、さらに半導体不足が自動車の販売不振に確実に影響しているからである。プラチナとパラジウム価格が米国のデータ発表でもそれほど悪影響は受けなかったのは、昨年それぞれ約10%と22%、価格が下落していたことから、この自動車販売の低迷はすでに昨年のうちに価格に織り込み済みであったからと思われる。」

<https://www.kitco.com/news/2022-01-06/Commerzbank-address-the-impact-of-weak-vehicle-sales-on-precious-metals.html>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA



WPIC直近の活動

- プラチナを触媒に使うPEM 電解装置は1950年代に宇宙開発プログラムの一環として開発されたが、グリーン水素の需要が増える中で大きな注目を集めている。その背景には脱炭素化を進める技術が必要とされていること、再生可能電力の規模拡大とその製造コスト減に伴ってグリーン水素ビジネスに将来性が生まれてきていること、そしてPEM 電解技術の発展などが挙げられる。詳しくはプラチナ豆知識「電解装置のプラチナ」(2021年12月8日)をご覧ください。
<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2021/12/08>

- 2021年第三四半期のプラチナクォーターレポートができました。詳しくは下記のリンクからご覧ください。
<https://platinuminvestment.com/supply-and-demand/platinum-quarterly>



(@wpicjapan)

免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。